

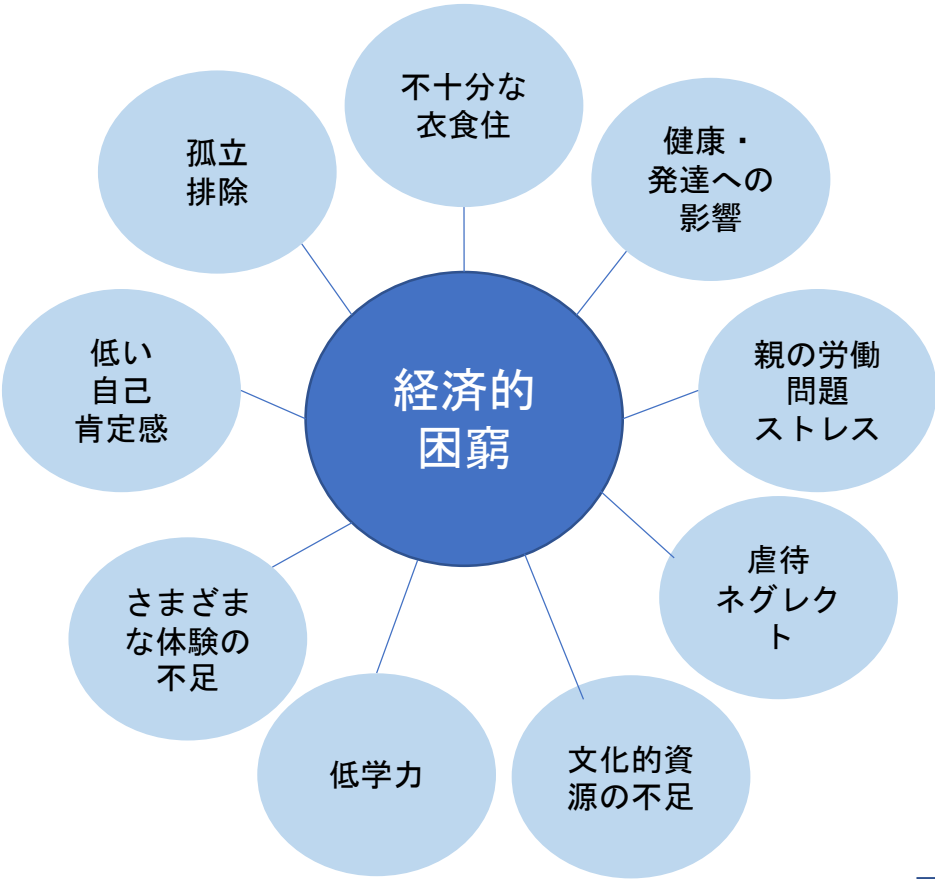
貧困と特別二一ズ教育Ⅲ

問題意識と課題設定

加瀬 進
(東京学芸大学)

<子どもの貧困>理解のフレーム

日本特別ニーズ教育学会2019@長崎大学
課題研究「貧困と特別ニーズ教育Ⅲ」
企画趣旨関連資料（加瀬進：東京学芸大学）



その社会で、
通常得られるモノを得られない

その社会で、
通常経験できることができない

学習・教育機会の制約
ライフチャンスの制約

不利の累積、貧困の長期化
(若者の貧困・おとなの貧困)

次世代の子どもの貧困

保護者の「貧」→「困」→子どもの「困」→(将来の)「貧」



(秋田喜代美、小西祐馬、菅原ますみ編著『貧困と保育』かもがわ出版、2016年より)

子どもの“問題行動”と“家庭力”

- 二つの問題行動

- 内在化問題行動（internalizing behavioral problems）

- 寂しそうにしている、ほかの子と遊ばない等

- 青年期：心身症や気分障害、適応障害、不安障害

- 外在化問題行動（externalizing behavioral problems）

- 決まりや指示を護らない、人やものに攻撃的等

- 青年期：反抗挑戦性障害、非行



学業不振
就業意欲の低下

- 家庭力 = 問題行動を抑制する環境因子の一つ

- 安全指導
- 尊重関係
- 配偶者との相談・協力
- 子どもの前での良好な夫婦関係
- 家族全員での夕食
- 親子の会話

家庭力のIndex

しつけ・安全指導・尊重関係・自然に関する話題・豊富な体験機会・配偶者との相談/協力・子の前での夫婦の肯定的会話・この前での夫婦の否定的会話・親子の会話・親子の作業・文化/芸術体験・家族全員での夕食

現在の“家庭力”と親の子ども頃の体験

- 母親の子ども頃の体験

- ① 自然体験（海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりした等）
- ② 家庭体験（クリスマスケーキを一緒に作ったりした等）
- ③ 地域体験（花火大会や盆踊りなど地域の行事に参加した等）
- ④ 文化体験（美術館や音楽会に行ったこと等）



- 文化体験以外、母親の学歴による有意差はない。
- 家庭体験と文化体験、家庭体験と地域体験、自然体験と文化体験に高い相関がみられる。
- 家庭体験と文化体験が現在の家庭力に有意な正の相関をもつ。



- 母親自身の子どもの頃の家庭体験や文化体験が重要であり、家族単位での活動を豊富に行い、地域活動や自然と触れ合う体験を豊かにすることは、成人して家庭をもったときに「家庭力」として生きてくる。

現在の“家庭力”と子どもの問題行動

- 家庭力と子どもの内在化問題行動

- 次の家庭力Indexが内在化問題行動を抑制する。

- 安全指導（火遊びや不審者への注意をするなど）
- 尊重関係（子どもが親を尊敬するなど）
- 配偶者との相談・協力（子育てなどについて相談・協力し合う）
- 子どもの前での良好な夫婦関係（子どもの前で配偶者がお互いを誉めあう）
- 家族全員での夕食（会話を楽しむことを含む）
- 親子の会話（お互いに一日のことを語り合う）

- 家庭力と子どもの外在化問題行動

- 全体として家庭力の高さが外在化問題行動を抑制するが、次の知見が得られている。

- 母親が高専・短大卒の場合、「尊重関係」「豊富な体験機会」「配偶者との相談・協力」「子の前での夫婦の肯定的会話」が抑制する。
- 母親が高卒の場合、「しつけ」や「文化・芸術体験」が抑制する

▶ 母親の学歴に関係なく「子どもに円満な夫婦関係を見せること」のみならず、家族一緒の「豊富な体験機会」をつくるのが重要であるが、貧困は「円満な夫婦関係」や「適切なしつけ」、「豊かな体験機会」を損なう。